

ミカサMPT-36型

パワーローエルの

見事な床面仕上げ振り

三笠ニューズ

発行所

東京都千代田区猿楽町1-4-3

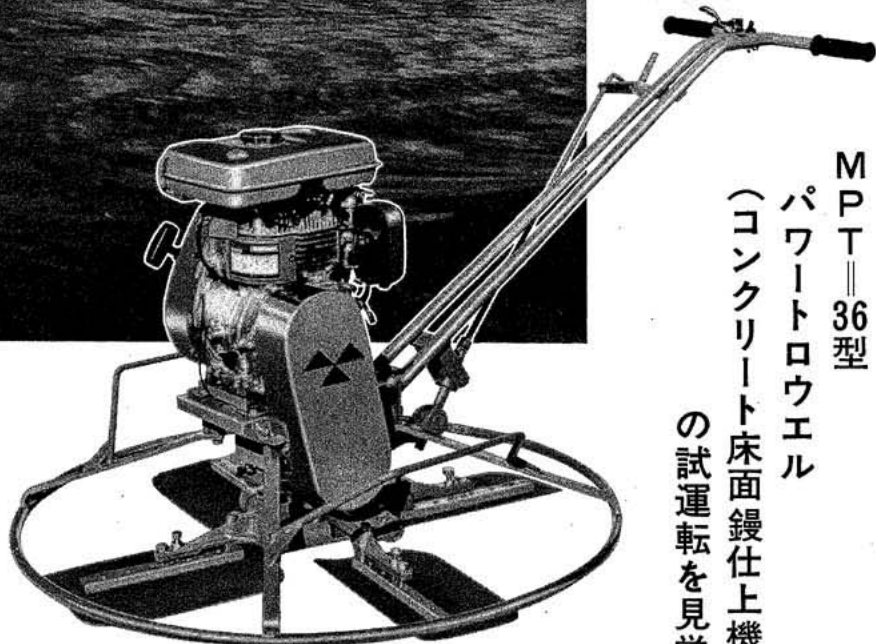
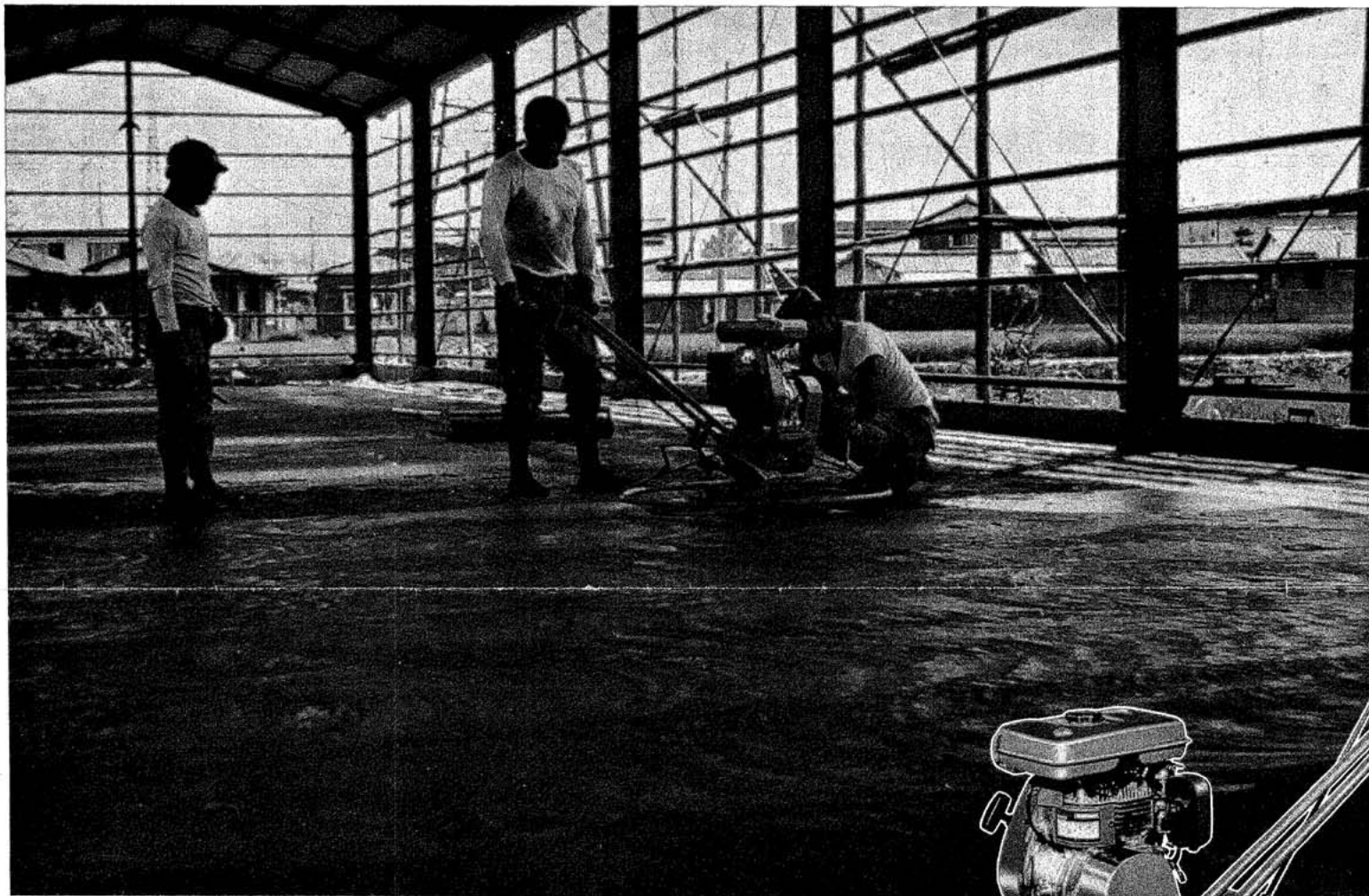
三笠産業株式会社

電話 東京(292)1411 大代表

テレックス 222~4607

郵便番号 101 番

PR旬報 年4回発行



MPT-36型
パワーローエル
(コンクリート床面鋳上機)
の試運転を見学

弊社で最初にパワーローエル（床面鋳上機）を生産したのは昭和三十七年です。今年で十四年になります。ところが、どういふわけか、其の当時からアメリカやカナダなどのリース会社では、その殆どが十台、十五台と持ち回していただいていた。日本ではさっぱりご要求がなく、僅かに左官業者さんの一部の方にお使いになつてゐるに過ぎませんでした。

そんなことから、一時本機の生産を中止して居りましたが、最近俄に各方面からお引合いをいただくようになり、また再生産を開始することにいたしました。

幸い弊社工場のある館林の野沢建設さんで納入試運転があるとの知らせに急ぎ駆けつけて見ますと、そこは館林名物「館林うどん」の倉庫建築現場でした。

長かった梅雨も漸く終わった七月末、真夏の太陽がジリジリと照りつけるなかで本機によるコンクリートの床面仕上げをつぶさに見学させて頂きました。

ミキサー車の到着が遅くなり、我々が現場へ着いた時は約二三〇㎡ある鉄骨造りの倉庫の床面の約半がコンクリート打設を終ったばかりのところでした。

パワーローエルを使うには、コンクリートが生乾きになって足跡がわずかに着くくらいの硬さに固ま

るまで、待つていなければならぬので、その間に取扱いの説明を兼ねて鉄板の上でパワーローエルを動かす練習をやることになりました。

ところが畳の上の水泳練習みたいなものでなかなか上手に扱えません。しかしこの野沢建設の皆さんは土間の仕上げではベテラン揃いで、パワーローエルの操作は手古摺つても床仕上の方は自信満々のご様子でした。



カンカン照りの陽気なので気温もグングン上がり、二時間程たつとコンクリートの表面が可成り硬くなつて来ました。上に乗ってみると足形がつくので、まだ少しパワーローエルをかけるには早いうちだが、買ったものは一刻でも早く試してみたいのが人情、硬まるのを待ち兼ねるようにして早速試運転に掛りました。

中からエンジンの快調なスタート音の静かなことに期せずして賛嘆の声があがりました。

先づハンドルを腰だめにして足を踏んばり、スロットルレバーを操作して一気にエンジンの回転をあげると、手許ヘガクンという、反動と共にブレードが回転し、ハンドルを握る手許の力の入れ加減で右に左に自由自在に方向を変えることができるようになります。初めのうちは一人

がフレームの取手を持って方向を決めながら二人がかりで操作していたのに、たちまち一人でやれることを会得してしまつたのには驚きました。

さすがは本職で一人でハンドルを握り二度とブレードの角度を変化させながら左から右へと仕上げを繰返すうちにコンクリートの表面に水が浮き出し、次いで光沢が出てきました。

思つていた以上の仕上がりぶり、ご満足そうな皆さんの表情に我々も思わず喜びがこみ上げて来ました。

真ん中の広い場所は一人で思うままにパワーローエルを使いこなして仕上げを行きますが、隅の方はやはり一人ではハンドル捌きが思うように行かないので、初めは一人がフレイムを押えつながら案内するようにして仕上げをしていました。しかしそれも間もなく全く一人で作業ができるようになつて来ました。

コーナーだけはコデで仕上げをしますが、その他の個所はすべてパワーローエルを一人で操りながら仕上げをしてしまつので、仕事はかかどるばかりでなく、省力化とそれの上きれいな仕上がりができるパワーローエルはこれからの床面仕上げにはなくてはならない機械だと言ふことを、皆さんも良くお判りいただけようでした。

今後のコンクリート工事には初めにパイプブレーターをかけてからパワーローエルをお使いになると、より緻密で丈夫なコンクリートの床ができることをお伝えして、機種の豊富なバラエティに富んだ三笠製品を今後共にお使い頂くようお願いして現場を後にした。

—森記—



MPT-36型仕様
外形寸法 高810mm 幅1010mm 長1610mm
回転翼の直径 910mm (36")
ブレード寸法 幅205mm 長345mm
ブレード枚数 4枚
ブレード回転数 50~100回転/毎分
使用エンジン 空冷ガソリン5PS
重量 78kg

建設機械展示会開催さる 9月22日～27日

のなかでは今全国各
ある高周波パイプリー
（ヘッドー）が、安全
量で強力でしかもキャ
を伸ばすだけでも広範
ンクリート打設にも、
たい所ででも従来にな
と大好評を博した。又
クターは従来の2サ
から低音の4サイク
ルチェンジされ更に始
ワコイルスターを取

にも百ボルト電源で使用できることは魅力だし、又小型発電機に於いても他社のものよりエンジン音がはるかに低いとお誉めのお言葉を頂いた。こうしてわずか六日間の展示会ではあったが三笠がバイブレーターや輾圧機のメーカーではなく騒音対策を施した小型特殊建設機械の総合メーカーであることを地元のユンザーさんを始めデラーの皆さんにもより強く印象づけられた。

——大沢報——



そして彼等のランマーに対する評価は、『ミカサイズ、ナンバーワン』と英語で言われ、私も、憶えていた、唯一のポルトガル語で、『オブリガー

（弊社代理店の営業マン）
 蝶々の羽根を
 マン色あざやかな
 掛け合せた壁
 も女性ならずと
 も我々までが
 興味を持つ、
 宝石の数々が
 陳列されている
 中、その中で
 メラルドや、サフ
 ーとして代表され、日
 と、三十万から五
 て行く人が多いと
 石は、日本ではだ

それについても、最近の河本通産大臣の訪伯、そして又、九月には、伯国、ガイゼル大統領が訪日される等、友好の絆がさらに深ま

二年後に控えた大統領選挙後に多分これらの規制も変わるであろうと大方の人が見ている。

サンパウロ市近郊の動向が、今日のブラジルの経済を左右するといつても決して過言でないと思うが、実際にブラジル国は一步一步前進してゐるのである。

一週間もあつたという間に過ぎ、私の今回出張の主目的もあらまし達せられた。今後の件に関してはT通商

市、弊社代理店近)
現場
です。そして

ハワロ市から一〇〇キロ余り離れた国際線専用のピラコボス空港よりリマ、ロスアンジェルス、サンフランシスコを経由で帰国の途についた。

―輸出課 徳永記―

（右）ソルンビル建設の対ブラジル国向輸出が再度活発化するのを祈念して、七月二十二日の夜サン



(サンパウロ市内の閑静な高級住宅街)

(ペロホリゾンテ市内にて活躍中の

(弊社代理店の営業マンM氏と筆者)

多くある土産店
 があり、古代
 の魚が化石と
 なったもの、
 色あざやかな
 蝶々の羽根を
 組み合せた壁
 掛け、そして
 女性ならずと
 も我々までが
 興味を持つ、
 宝石の数々が
 陳列されている。
 その中で
 メラルドや、サフ
 して代表され、日
 と、三十万から五
 て行く人が多いと
 石は、日本ではだ
 段が付けられると
 いずれにしろ私の
 縁の遠い物で、そ
 の異国に移民し、
 人の多い事を新た
 国間の交流が、今
 てゆく事を願うの
 最近の河本通産
 て又、九月には、
 イセル大統領が訪
 の絆がさらに深ま
 。そして現況の輸
 関税処置が一刻も
 を願うと同時に、
 統領選挙後に多分
 るであろうと大方
 郊の動向が、今日
 を左右するといっ
 ないと思うが、実
 一步一歩前進して
 いう間に過ぎ、私
 的もあましまし達せ
 に関してはT通商
 の益々の御協力を
 得ることにな
 るう。尚滞在中
 中これらの方々
 には一方ならぬ
 らぬお世話にな
 り厚く御礼上
 申上げる次第
 です。そして
 今後の三笠製
 品の対ブラジ
 ル国向輸出の
 再度活発化す
 る事を祈念し
 て、七月二十
 二日の夜サン
 ○キヨ余り離れた
 コボス空港よりリ
 ルス、サンフラン
 の途について。
 輸出課 徳永記

南アフリカ

ヨハネスブルグ展に参加して

八月三日より十日までの一週間、南アフリカ共和国、ヨハネスブルグ市のミラナ・パークに於て通称インターボウ（INTERBOU）と呼ばれる第五回国際建築建設展示会が開催された。私はこの展示会の後半三日間に結員として出向する為、八月六日十六時発の英国航空機で一路ヨハネスブルグへ向った。機は途中ボンコンスリランカ国のコロンボ、インド洋に浮ぶサンゴ礁の島セイシェルズに立ち寄り、翌朝の六時にはヨハネスブルグへ着いた。夕方乗って翌朝着くと云うとなんと近く近い様だが、東京、ヨハネスブルグには八時間の時差があり、実際の所要時間は二十時間を要した。行けども行けども夜が明けず、実に長い長い一夜であった。それでもついに二、三年前まではヨーロッパを廻ったりして二日も短かった事を思えば、距離も時間も短くなった事は確かである。



（設備機器が展示された大ホールの一つ）

（設備機器が展示された大ホールの一つ）
売を、他国からやってきた不利を克服して財産を築くのだから大したものである。白人が植民地の中で本国の保護のもとに暴利を得たのと違、国の援助など全くない本場の一匹狼である。南アのある白人がインドル人を評して「彼等は黒人より信じられるが、この商売に関しては本場に注意してかからない」といふ。これは世間話をしていて時の話ではない。未開国ではサンプルマーチャントといって、世界中からサンプルを少しずつ無料で集め、それを売って商売しようというのだから驚く。

話を横道にそれたが、これからインターボウ（国際建設機械展）の事についてお話しすることにする。この展示会は南アの展示会業者スベシヤライズドエキジビジョン社の手で催され、世界各地から一といつても大半はヨーロッパであるが、それでも二百五十三社が参加した。規模は東京の国際見本市等から比べれば小さく、晴見埠頭に在る展示用建物程のホールが二棟と、サッカー場の一面を使った建設機械の会場とから成っている。展示品が建設材料や建物の設備機材及び土木建設用機械に限られている為、規模は小さいが出品は外国からのものが非常に多い。国際色豊かであった。

三笠製品は南アフリカ代理のB社によって出品され、建設機械会場にある同社の小間にMTR 80H型タンピングランマーを初め、MTR 120型、MTR 55型タンピングランマー、MVC 52型、70型、110型の各種プレートコンパクター、MVI 110型各サイズのバイブレーターが展示された。此の会場に出品された日本製品は三笠製品の他にT.C.M.のフォークリフト・カートのトラッククレーンなどが目についたが、日本からの小型建設機械は三笠だけのようであった。

ヨーロッパからはドイツのワッカー、ボマック、ボッシュ、スウェーデンのダイナパック、トリメックス、イギリスのワッソップ等の小型建設機械が各社とも南アの代理店を通じて出展していた。その他に南ア産のコンパクター、バイブレーターも展示されて居て、近頃珍らしい小型建設機械の展示会であった。大型建設機械の対象になるという熱心さを持っていない。今回は出品されてない事でも

会社である事も日本と異なるようであるが、会場への入場が会員制というのにも趣意を込めている。会員カードのない一般の人が入場する場合は入口で会員となる手続きを踏んで入場しなければならない。従ってあまり用事のない人は来ない様であった。入場者は何れも何かを求めようという目的を持って来ると見えて、関係のないものが立止まって見るといふ事は少なかった。

又、小間の中まで入っていく人は単に覗きがあるというだけでなく、ユーザ―又はディーラーとして商談の対象になるという熱心さを持っていない。入場者は一週間で約二万四千名だった。と主催会社の社長が最終日の夕方、小間へやって来てビールを飲みながら早口で喋る。既に来年の展示会の企画が終わって居り、カイラミ市というヨハネスブルグ近郊で開かれるという建設機械の計画図を見せながら、さかんに説明をしてくる。筆者が今回の展示会に日本からやってきた唯一の参加者だから新聞に乗せたいという。展示会が終わった後の新聞では、まづは感謝の気持ちでお受けした。最終日の晩は九時からパーティーが食堂で催されるというので、七時に会場が閉まると近所の小間の、一週間の間に親しくなった連中が集まり、野外でバーベキューをやったりビールを飲みながら歓談する。どうも此の連中はこういう事が好きで、連日の小間にはコンペティター（競争相手）が多いのだが、そんな事はおかまいなしに集まって

来ては話の相手に入っている。ギブ・アンド・テイクで情報の交換もある。黙っていても調べる気にならなければならぬ。どの小間もキャンピングカーを引っぱり込み、商談に使ったり、夜の宿直に使ったりしているのだが、B社の小間には特に大きい冷蔵庫が備えられてあり、接待用のビールが詰まっている。大半は近所から冷やするのを頼まれたものであり、最後の晩はそれを片付けようとして皆集ってパーティーへ行く前のパーティーをやるのである。やがて九時になり、冬のヨハネスブルグの寒さに震えながら、親しくなったB社の社員、セールスエンジニアのユージンや展示会会社の社長と共にパーティーな

るものに行った。既に会場はあふれんばかりの人で座るテーブルもない状態、お喋りのざわめきで、舞台上で演奏しているデキシージャズも、何かをやっているという程度に聞こえるという有様、それでも我慢して終わるまで聞き、次がテレビでお願いの漫談家、会場は水を打ったように静まり話を聞いている大爆笑、ところが今度はこれが全く判らない。音の悪いスピーカーのせいにしたいては、今度こそ聞いてみたい。ユージンに説明を求めた。意味は判ったが少しも面白くない。落語の落ちを説明されて判った。でもあまり面白くないのと同じで、さんざんなパーティーであったが、ともかく最後まで付き合ひ、聞きながら喋りながらホテルへ着いた。二時だった。これで朝七時に迎えるのだからかわらない。

世界の中の国が不景気から脱しつつあるというこの時期に、南アは今不景気の真只中にあると云われる。本来的に金とダイヤモンドに代表されるように、豊かな鉱物資源に恵まれた裕福な国なのだ。金は世界の七〇%を産し、クロムは世界の九〇%を供給しているという。世界の自由主義国は既に南アをなくしてはやって行けない。南アを失った場合（ダーバン近郊の緑豊かなバインタウン市）

は特に日本など工業国の受ける打撃は大きいと云われる。不況の波は南アに一年遅れでやってきた。輸出品の殆どが原材料のこの国は、不況の波をかぶるまでは工業先進国に比べて遅いが、又回復も遅い。今大型機械の販売は難しく、（パーツに100%の利益を乗せて喰ひつないでいる）、とあるフランスのクレインの代理店を訪問する販売会社の小間、同社の社員がこぼしているのが印象的だった。

南アと云えば人種差別（アパルトヘイト）がまず頭に浮かぶ。南アを訪問する以前には人種差別でいかなる思いをするのでもないが、行くと見れば幸いなこと、に、日本人は名譽ヨーロッパ人と、表面上は全く差別はないように見受けられる。中国人やインド人はアジア人としてヨーロッパ人と区別され、レストランや公衆トイレ等、ノンヨーロッパ人の方へ入らないといけぬ。日本人と中国人は外見上区別しにくいので身振をきかんとして堂々と振舞って行けば、日本人と見られるようである。例え日本人でもだらしのない格好をしていれば中国人と見做され、目的のレストランへ行ってもメシも喰えない事になってしまう。白人五百万人に對し黒人とも五倍とも云われる黒人の間に完全に一線が引かれ、住む地域、仕事、教育、乗り物、言葉（国語はアフリカーンスというオランダ語系の言葉で白人は殆ど英語を話すが黒人は少ない）まで全て白人とは異なる。だから白人社会の中に居ると黒人のことは殆ど分らないという感じである。人種差別の本来の考え方は、白人は白人でやるから、黒人は黒人でやるのださうだが、実際には白人の繁栄は黒人を踏みにじたものであり、彼等の犠牲の上に白人人は裕福な生活をしているという感じは否めない。以てこのスバイに扇動されてやってくる。それを世界中のマスコミが其後情勢が変わって、最近では市民権もあり、特に英心配しての始末が悪い。と、真顔でいずればなくす方向にあると見られるが、そこへ行くまでに本場の白人と黒人の衝突があった時が問題だ。

（ヨハネスブルグ郊外の建築現場で活躍するMVC 90Fコンパクター）
ように喧嘩ばかりしているのだから、と不思議顔で云っていた。ある白人は、「あの暴動は共産主義の手に落ちた隣国のモザンビークやアンゴラからのスバイに扇動されてやってくるのだ。それを世界中のマスコミが其後情勢が変わって、最近では市民権もあり、特に英心配しての始末が悪い。と、真顔でいずればなくす方向にあると見られるが、そこへ行くまでに本場の白人と黒人の衝突があった時が問題だ。」という心配が大方のようである。アフリカのヨーロッパ、南アを後にしてナイジェリア・エジプトを訪問し帰国したが、これらの国の新聞は紙面の都合もあり、後の機会にゆずりたいと思う。最後に各国でお世話になった三笠輸出代理店の商社駐在員の方々に、この紙面を借りて心より御礼申し上げます。――藤村記――

（建設機械展示場右手にB社の小間が見える）
話からインターボウ（国際建設機械展）の事についてお話しすることにする。この展示会は南アの展示会業者スベシヤライズドエキジビジョン社の手で催され、世界各地から一といつても大半はヨーロッパであるが、それでも二百五十三社が参加した。規模は東京の国際見本市等から比べれば小さく、晴見埠頭に在る展示用建物程のホールが二棟と、サッカー場の一面を使った建設機械の会場とから成っている。展示品が建設材料や建物の設備機材及び土木建設用機械に限られている為、規模は小さいが出品は外国からのものが非常に多い。国際色豊かであった。

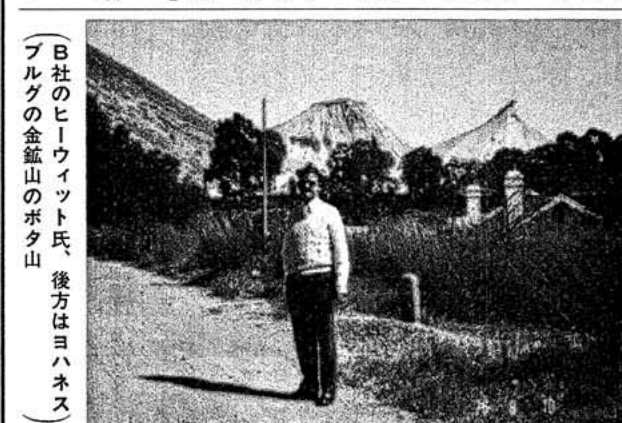
（B社のヒューイット氏、後方はヨハネスブルグの金鉱山のボタ山）
（三笠ランマーの説明をするB社のスタッフ）
（右端と左端）
小規模の感じを受けるが、それはそれだけに入場者は小型建設機械に関心を持った人達が多かったようであった。各関係協会や政府機関の後援や協力があるとは云え、展示会の主催者が展示会を催す事を目的とした営利



（建設機械展示場右手にB社の小間が見える）
話からインターボウ（国際建設機械展）の事についてお話しすることにする。この展示会は南アの展示会業者スベシヤライズドエキジビジョン社の手で催され、世界各地から一といつても大半はヨーロッパであるが、それでも二百五十三社が参加した。規模は東京の国際見本市等から比べれば小さく、晴見埠頭に在る展示用建物程のホールが二棟と、サッカー場の一面を使った建設機械の会場とから成っている。展示品が建設材料や建物の設備機材及び土木建設用機械に限られている為、規模は小さいが出品は外国からのものが非常に多い。国際色豊かであった。



（三笠ランマーの説明をするB社のスタッフ）
（右端と左端）
小規模の感じを受けるが、それはそれだけに入場者は小型建設機械に関心を持った人達が多かったようであった。各関係協会や政府機関の後援や協力があるとは云え、展示会の主催者が展示会を催す事を目的とした営利



（B社のヒューイット氏、後方はヨハネスブルグの金鉱山のボタ山）
（三笠ランマーの説明をするB社のスタッフ）
（右端と左端）
小規模の感じを受けるが、それはそれだけに入場者は小型建設機械に関心を持った人達が多かったようであった。各関係協会や政府機関の後援や協力があるとは云え、展示会の主催者が展示会を催す事を目的とした営利

（三笠ランマーの説明をするB社のスタッフ）
（右端と左端）
小規模の感じを受けるが、それはそれだけに入場者は小型建設機械に関心を持った人達が多かったようであった。各関係協会や政府機関の後援や協力があるとは云え、展示会の主催者が展示会を催す事を目的とした営利



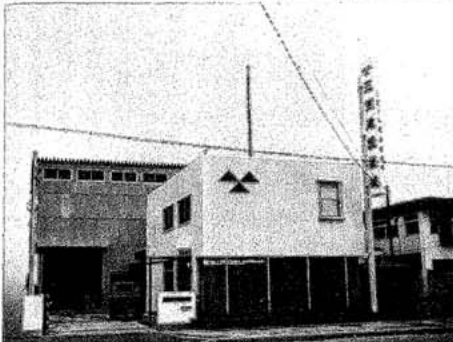
（ヨハネスブルグ郊外の建築現場で活躍するMVC 90Fコンパクター）
（三笠ランマーの説明をするB社のスタッフ）
（右端と左端）
小規模の感じを受けるが、それはそれだけに入場者は小型建設機械に関心を持った人達が多かったようであった。各関係協会や政府機関の後援や協力があるとは云え、展示会の主催者が展示会を催す事を目的とした営利

三笠建設機械(株)

九州出張所新社屋落成



岡田所長と
新装なった
九州出張所



おいては、かねてより九州出張所の社屋を新築中とのところ、この度目出度く竣工され、八月三十日よりオープンした。

新社屋は、新幹線沿いの博多駅南大通りに面しており、バス停留所の真前でもあり、わかりやすく、博多駅へは車で五分もかからず行かれる立地条件にも恵まれた博多の新商業地帯とも云われる場所にある。

新社屋は四百三十二平方メートルの敷地に、二階建て、六百六十平方メートルのショールーム付事務所と百六十平方メートルの大型倉庫をそなえた建物で、ショールーム付事務所は明るく機能性に富み、二階には会議室、応接室及び日本間厚生施設が設けられ、倉庫には、一・五ト吊りの近代化のクレーンを設置し、出荷体制に万全を期している。又、車の駐車も十数台迄可能で、出入りが自由に出来るようにゆとりたっぷりとしたスペースが取られてあつて、すべてに近代化の設備を整えたオフィスとして細やかな苦心のほどがうかがえる新社屋である。

三笠建設機械九州出張所は昭和四十二年十一月開設以来岡田重美所長のもと、苦節九年九州地区において、三笠製品販売の拠点として、めざましい発展振りを示し、おおいに三笠の名をとどろかせ、愛される三笠として、行動力に富み徹底したPRときめ細いサービスをモットーにゆるぎなき地盤を築き、全所員の努力と同地区三笠代理店皆様の協力をめ、ユーザーさんの暖かい御支援により、将来へのさらなる、いっそうの飛躍を期して完成された新社屋である。

この新社屋落成により、従来にも増して強力な三笠製品の九州地区販売拠点として、完璧かつ迅速な供給と豊富な在庫を誇る同社の今後の活躍を期待すると共に、九州地区各代理店さん、ユーザーさんの更に一層の御支援をお願いしてやみません。

新住所
福岡県福岡市博多区博多駅南五丁目二番五号
TEL 〇九一四三三二五五三
TELEX 七三二二八二

小林

五十年販売コンクールに 仙台出張所優勝す 優勝賞再び東北の地に

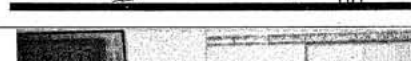
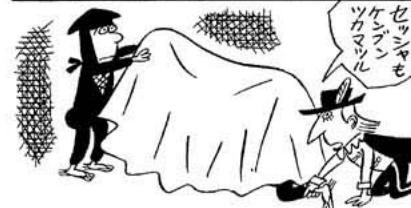
六月二十五日終業後会議室に於て恒例の誕生会が行われたが、これに先立ち昭和五十年度の販売コンクールに優勝した仙台出張所の表彰式が催された。京谷社長より長畑仙台出張所長に優勝賞状と授与され、出席者一同の破れるような拍手を浴びながら次々と出張所長の名前が呼び上げられ副賞の金一封が贈られた。

長引く不況からの立ち直りも今一歩という現況下での販売コンクールも、後半の追込みに入ってから三笠巡回サービス展を各地で開催する等、休日にも返上して各課激しい競争を演じ、売上げ成績を月毎に更新した。



(優勝賞は長畑所長の手に)

猿楽流三笠丸 No.41 永井郁



安全運転のための 運転適性検査実施

日頃の業務で自動車を運転する社員が多い当社では今年も安全運転教育の一環として、八月十一日と十二日の二日間、興亜火災海上保険協会の協力を得て、免許証を所有する社員全員を対象に各種計器による運転適性検査を実施した。

当日は女子社員を含む四十数名が仕事の合間をぬって動体視力、速度見越反応、処置判断等安全運転に必要な身体的条件の検査を受けたが、日頃名ドライバーと言われている者も、実際の車の運転と勝手が違うのか皆、緊張した面持で検査に臨んでいた。

やがてそれぞれの検査を終了した者には担当の方から各自に合った安全運転について細かいアドバイスをして頂いたが、当社の社員は総体的に優秀で七割以上の者は、運転適格者であるという事であった。しかし、要注意と診断された者ももちろんの事、適格者も自分の運転技術を通信する事なく、これからも安全運転に努めたいものである。

総務部 原田



賑やかに京谷社長 誕生会開催

七月二十八日午後六時より四谷・大木戸の自慢本店にて京谷社長の七十五回の誕生会をお祝いする祝賀の宴が催された。

毎年社長からお招きにあずかるのは在京の課長以上であるが、今年は新任課長を含め十七名の幹部が招待された。

この自慢本店が五月に火災に遭い例年の宴会場に使っていた二階の座敷がなくなり、今回から一階の庭に面した大きなガラスの嵌められた木の香も新しい明るい新築の広間を使うことになった。

床の間を背にして着座された社長の前の座敷にはバースデー・ケーキや、板前さんが腕によりをかけた鯛をあらわした丹盛りの豪華な鯛料理が並べられて、今日のお目出度い席の雰囲気を一層引き立てているかのようであった。

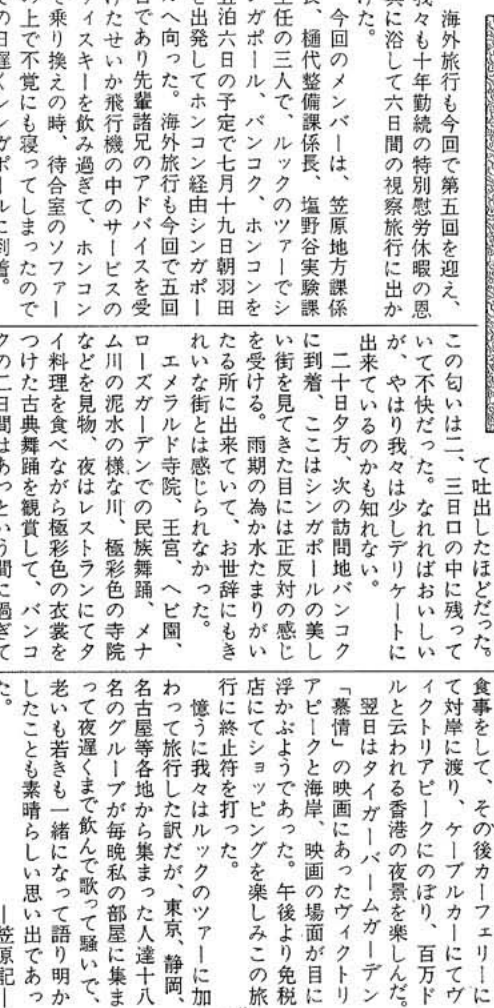


第五回 社員海外視察旅行記

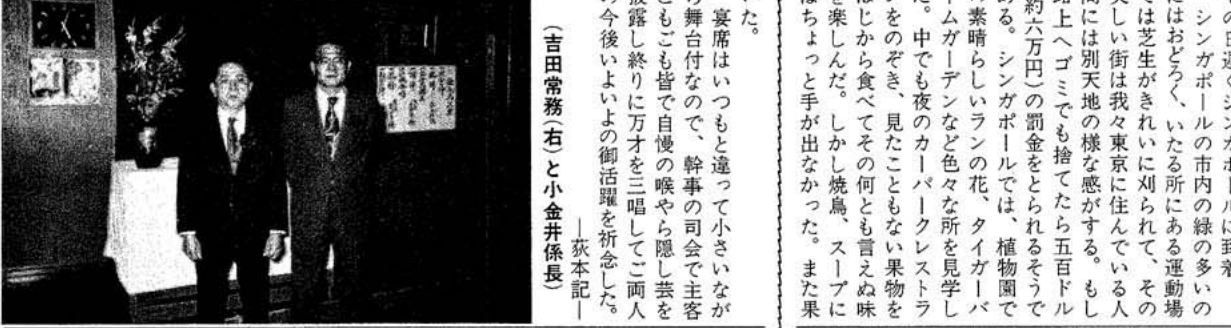
海外旅行も今回で第五回を迎え、我々も十年動線の特別慰労休暇の恩恵に浴して六日間の視察旅行に出かけた。

今回のメンバーは、笠原地方課係長、橋本整備係係長、塩野谷実験課主任の三人で、ルックのツアーでシンガポール、バンコク、ホンコンを五日六日の予定で七月十九日朝羽田を出発してホンコン経由シンガポールへ向った。海外旅行も今回で五回目であり先陣諸兄のアドバイスを受けたせいだ飛行機の中はサービスのウイスキーを飲み過ぎて、ホンコンで乗り換えの時、待合室のソファアの上で不覚にも寝ってしまったのでその日遅くシンガポールに到着。

シンガポールの市内の緑の多いのはおどろく、いたる所にある運動場では芝生がきれいに刈られて、その美しい街は我々東京に住んでいる人間には別天地の様な感じがする。もし路上へゴミでも捨てたら五百ドル(約六万円)の罰金をとられるそうである。シンガポールでは、植物園での素晴らしいランの花、タイガーパームガーデンなど色々な所を見学した。中でも夜のカーパークレストランをのぞき、見たこともない果物をはじから食べてその何ともいえない味を楽しんだ。しかし焼鳥、スーパにはちよっと手が出なかった。また果



(シンガポールのタイガーパームガーデンにて、右より橋本、笠原、塩野谷)



(吉田常務(右)と小金井係長)

三笠河口湖湖畔の家終幕

今年も又、昨年の好評だった富士山麓の河口湖畔に六月末から八月末までの夏季期間中、暑くて騒々しい都会から静かで涼しい富士山麓で社員及び家族の方々にゆくり過ごしてもらおうと三笠湖畔の家を開設した。

開幕時は、梅雨が長引いたので利用者の足を心配したが、そこはやはり若者達、六月末の土曜日も急ぎ、休日という一週間まで頂上開設早々十四名が逗留という有様。以後、暑い東京の雑踏を逃れて、静かな湖畔に憩いを求めて、釣りや散歩に社員グループで賑わい、やがて子供達の夏休みにはいよいよ、社員家族連れの大口申込みも殺到、寝具を追加したり、利用日の割りふりや、部屋割りや頭を悩め、係としてはうれしい悲鳴の連続であった。

なかでも週末になるときまづ足を運んでいた常連もいたようで、二

回三回の利用者はざらで、三笠の大公園には大に受け、父親につれて釣竿をかついでうれしそうに出かけてゆく子供の姿はとほほえましく和やかであった。

炭記